

平成 30 年度事業報告  
(平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人 映像産業振興機構

1. 事業の経過

平成 30 年度の通常総会（6 月 19 日開催）でご承認いただきました、本年度の事業計画書、会計収支予算書に基づき、人材育成事業、内外の市場開拓等に関する事業を実施致しました。各事業の実施状況につきましては、次の通りであります。

2. 主な事業の実施状況

(1) 人材育成事業

① 短編映画作品製作による若手映画作家の育成 (ndjc2018)

文化庁

13 年目を迎えた本年度は、35 の映像関連団体等より有望な若手作家の推薦をいただき、応募 80 名（前年 62 名）の中から 15 名がワークショップ（8 月 10 日～8 月 20 日）に参加しました。

さらにその中から 5 名の作家が、制作プロダクションのご協力のもと、35 ミリフィルムでの撮影を必須とし 25 分以上 30 分以内の短編映画作品を完成させる製作実地研修を行いました。完成期限は平成 31 年 1 月 25 日で、2 月 5 日の合評上映会（丸の内 TOEI）を皮切りとして京都、大阪、名古屋にて、完成作品の合評上映会を行いました。

この 12 年間に完成した 62 作品についても、引き続き発表機会の提供活動を行っております。

主な ndjc 作品の発表機会 (ndjc 自主事業の一環として)

- I. 国内外映画祭における主な招待上映（海外 5、国内 10 映画祭）
- II. 配信（青山シアター、ひかり TV 等）

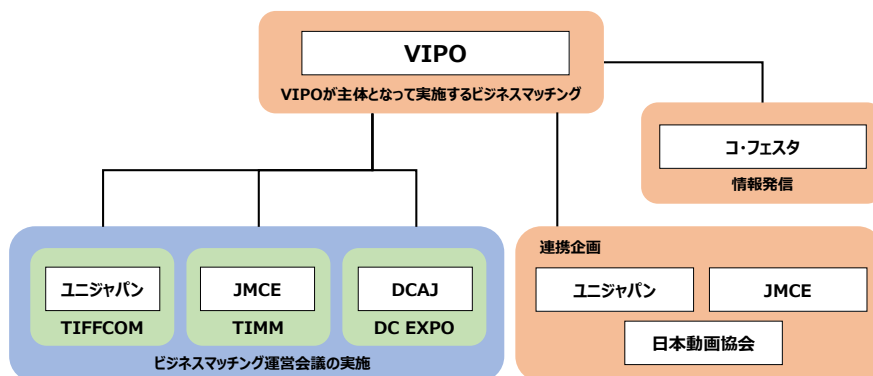
昨年度に引き続き今年度も参加作家の活躍が続いています。9 月に藤村享平監督『パパはわるものチャンピオン』（配給ショウゲート）、10 月に松永大司監督『ハナレイ・ベイ』（HIGH BROW CINEMA）が公開されました。2019 年は、中野量太監督・ふくだももこ監督・文 晟豪（ムンソンホ）監督等の ndjc 出身監督の新作及びデビュー作が公開を控えております。

② 平成 30 年度映画スタッフ育成事業(新規) 文化庁  
 将来の映画スタッフを育成するため、映画製作の現場での職業体験を希望する学生をインターンとして適切な映画製作現場へ派遣するインターンシップ制度を今年度より受託しました。VIPO の知見を生かしながら、将来の業界人材の育成につながるような事業実施を行っております。今年度の実績として 50 人の学生を 23 作品にインターンとして参加させました。

③ 映画・映像人材育成事業 京都府  
 京都府との事業は、昨年に引き続き『京都映画企画市』『京都クロスメディア推進戦略拠点事業』よりの再委託事業を実施中です。『京都映画企画市』は、従来通り時代劇映画の企画募集ですが、今年度は過去最高の 37 企画（昨年 22 企画）の応募が有りました。いずれも意欲的なものであり質的レベルも上がっております。今年度は『夏の踊り子』という企画が選定され、無事パイロット版が完成しております。再委託事業のコンテンツを軸としたセミナーの開催（「最先端 XR(VR/AR/MR)攻略セミナー」）は、12 月に 4 回開催し、無事終了しております。

(2) 内外の市場整備事業

① 平成 30 年度コンテンツ産業新展開強化事業(新規)  
 (コンテンツ関連ビジネスマッチング事業) 経済産業省  
 日本コンテンツの国際取引活性化や新市場創出に資する、①新人・若手クリエイターが活躍できる機会を創出するビジネスマッチングモデルの確立、②先進技術を活用し新たな連携が行えるビジネスマッチングモデルの確立、③新興マーケットへ安心して進出できるビジネスマッチングモデルの確立を目的とした、コンテンツ国際ビジネスマッチングイベントを開催しています。



【上期実施内容】

## I. コンテンツ国際ビジネスマッチングの実施

### i. 「アヌシー国際アニメーション映画祭ビジネスマッチング」(6月12日～15日、フランス・アヌシー)

日本コンテンツPRのための商談スペースを設置し、2社がセールス拠点として活用しました。

また、MIFA(併設見本市)スペシャルイベントでは、「**Emerging opportunities for international co-production with Japanese animation**」と題し、スピーカーとして Manga Entertainment COO の Jerome Mazandarani 氏、SUN BRIDGE 代表/CITIA 日本代表の山口晶氏を、またモデレーターとしてアニメジャーナリストの数土直志氏を迎え、国際共同製作のケーススタディから課題点等をご提示いただきました。80名のアニメプロダクションや配給会社の方々が参加しました。

### ii. 「日中IPビジネスマッチングツアー」(8月7日～10日、中国・北京)

「北京漫画アニメゲーム産業協会」の協力のもと、①中国コンテンツ企業への企業訪問、②アニメ北京開幕式&フォーラム出席、③中国コンテンツ企業とのビジネスマッチング等を実施しました。ビジネスマッチングでは、日本からは13社、中国からは38社参加し110件の商談が行われました。

### iii. 「日中アニメ・ゲームコンテンツ産業交流サミット」(8月24日、中国・上海)

SMG(上海メディアグループ) SiTV 協力のもと、①基調講演「伝統文化のコンテンツ開発への応用」、②日本企業各社による自社紹介、③ビジネスマッチング商談会等を実施しました。中国企業側から日本の V-Tuber 等新サービスとのマッチング希望があったことから、日本側からはデジタル V-Tuber 企業と中国との新規ビジネス展開に熱心な企業等が参加しました。双方の企業の目的に合致したビジネスマッチングを行い、日本からは13社、中国からは31社が参加し、165件の商談が行われました。

### iv. 「kidscreen summit 紹介セミナー」(8月28日、東京)

東京国際フォーラムにて、アニメーションに限らず、TV、配信、ゲーム、おもちゃなどキッズ向けのコンテンツ見本市として北米最大のイベントである、kidscreen summit のオーガナイザー2名(イベントセールスマネージャーの Joel Pinto 氏、アソシエイトパブリッシャーの Myles Hobbs 氏)を迎え、kidscreen summit の紹介プレゼンテーション、及びパネルディスカッションを実施しました。参加者は71名にのびりました。

また、翌日はオーガナイザー2名とアニメーションプロダクションやテレビ局な

ど4社の企業訪問を行い、kidscreen summit を通じた海外展開についてディスカッションしました。2月のイベントへ出展を決定した企業は、合計8社。

v. TIAF 企画 海外アニメプロデューサーによるピッチセッション&マッチング  
(10月23日、東京)

国際的に活躍するアニメーションプロデューサー3名による、日本との共同製作アニメーションプロジェクトのピッチセッションが行われました。ピッチ後には、マッチングの時間を設けました。ピッチング資料の作成方法やピッチ手法について学び、1~3月実施の「アニメーション海外展開サポート ピッチトレーニングプログラム」へもつながる機会となりました。参加者は83名。

vi. 「MPA/DHU/TIFFCOM フィルムワークショップ」(10月25日、東京)

第1部では、長年ハリウッド及び中国で活躍してきたプロデューサーであるAnder Morgan氏が海外での映画製作のノウハウや海外進出の足掛かりをテーマに講演しました。参加者は107名でした。

第2部では、日本の若手映画製作者5名による長編企画ピッチコンテストが開催されました。5名は77企画から選ばれたファイナリストで、MPA Grand Prizeには湯浅典子氏の「地球が滅亡するその前に〜家族炎上〜」、Special Recognition Prizeには斉藤栄美氏の「にじいろのうぶごえ」が選ばれました。

vii. 「日中ビジネスマッチング in 広州 2018」(11月8日、中国・広州)

広東省電影行業協會の協力のもと、広州にて①基調講演「中国及び広州の映画産業についての紹介」「中国企業とのコラボレーションについて」、②日中双方からの企画ピッチング、③Face to face matching、④懇親会を実施しました。日本からは13名の脚本家及びプロデューサーが参加し、中国からは12社が参加しました。日本から参加した13名中11名が「本ビジネスマッチングは有意義だった」と回答し、13名全員が「今後継続して話をしていくことになった中国企業があった」と回答しており、有意義なビジネスマッチングが実施できました。

viii. 海外動画配信サービスにおける 日本コンテンツ専用チャンネル活用セミナー  
〜A New Business Model to Export Japanese Content Worldwide〜  
(2月27日、東京)

Amazon プライムにおいて米国市場向けの日本コンテンツ専門有料チャンネル「J-Edge」等のチャンネルを運営するGlocal Media社から、CEOのデニス・ヤン氏、チャンネルマネージャーの中村 淳氏をスピーカーにむかえ、米国における日本コンテンツの需要や、その他海外向けの日本コンテンツ展開の可能性について紹介。プレゼンテーションの後にはマッチングセッションの時間を設けまし

た。参加者は 55 名。

- ix. 「北米音楽業界ビジネスマッチング」(2月24日～3月24日、米国)  
音楽ビジネス先進国・米国の大手音楽マネージメント会社で、(株)ソニーミュージック・マーケティングと(株)WOWOWから1名ずつ(計2名)がアーティストのマネージメント業務・宣伝・マーケティング・メディアブッキング・ファンイベント企画などのノウハウや、クリエイターとのネットワークを身につけました。また、音楽関連企業とのビジネスマッチングを行いました。  
(ビジネスマッチング訪問先: Q Prime、Sony Music America、VEVO、Germano Studios、Warner Music/Atlantic Records、Merlin Network USA、AWAL/Kobalt)
- x. 「シネマート ロッテルダムラボ参加」(1月26日～30日、オランダ・ロッテルダム)  
「ロッテルダム映画祭」の企画マーケット「CineMart」とパートナーシップを締結し、2年目の今年は「CineMart」が運営する「Rotterdam Lab」(プロデューサー養成ラボ)に3名のプロデューサーを派遣しました。29カ国から60名のプロデューサーが参加し、講義やセッションのほか、ブレックファースト、ランチの機会にネットワークを構築するとともに、プロジェクトの売り込みを行いました。
- xi. Kidscreen Summit 2019 ジャパンブース出展(2月11日～14日、米国・マイアミ)  
北米最大のキッズエンターテインメント産業見本市、Kidscreen Summit 2019にジャパンブースを初めて出展しました。計6社の日本企業が参加し、4日間の会期中、海外マーケットへ自社コンテンツを展開するため商談の機会を持ちました。各社は、商談のほか、さまざまなセッションやネットワーキングに参加し、北米をはじめとしたマーケットの情報を積極的に吸収しました。ジャパンブース参加企業が4日間で行った商談は合計109件。
- xii. アニメーション海外展開サポート ピッチトレーニングプログラム(トレーニング:1月～3月 本番:3月25日、いずれも東京)  
製作プロダクション、プロデューサー等を対象とし、海外のパートナーと組んで世界の市場を目指す国際アニメーション製作プロデューサーの育成を目的としたピッチトレーニングプログラム。全12の申請申し込みの中から、5事業者を選定し、3月25日のピッチ本番に向けて5回に渡り、海外のプロダクションやバイヤーへのセールスを想定したピッチングスキルを身につけるトレーニング

を実施しました。ピッチ本番では、海外アニメーションプロデューサーを含む観客に向けて英語でピッチを行い、作品やピッチへの有意義なフィードバックをもらいました。

xiii. 「VR・AR活用セミナー」(10月～2月、全国10都市)

10都市(以下参照)にて、次テーマに沿ったセミナーを開催しました。

- ・「先進コンテンツを活用した多産業展開について」
- ・「VR・AR等コンテンツ制作ガイドラインの紹介」
- ・「地域における先進コンテンツ技術活用事例」
- ・「先進コンテンツ技術による地域活性化促進事業」
- ・「VR・AR等の先進事例の紹介と体験会」

(10/25 仙台市、11/29 高松市、12/13 大阪市、12/14 広島市、12/19 札幌市、1/24 名古屋市、1/29 富山市、1/31 福岡市、2/7 さいたま市)

非コンテンツ業界の参加者は活用方法を、コンテンツ業界の参加者はパートナーを考える機会を提供出来たと思います。

【ビジネスマッチング実施スケジュール(予定含む)】

	2018年							2019年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アヌシー国際アニメーション映画祭ビジネスマッチング	準備	★6/12-15実施								
日中IPビジネスマッチングツアー@北京	準備		★8/7-10実施							
日中アニメゲームコンテンツ産業交流サミット(上海)		準備	★8/24実施							
Kidscreen Summitプレゼンテーション		準備	★8/28-30実施						★2/11~14実施	
日中ビジネスマッチング in 広州2018			準備			★11/8実施				
AmazonプライムGLOCAL紹介セミナー					準備				★2/27実施	
音楽業界ビジネスマッチング					準備				★2~3月実施	
VR・AR等活用セミナー	複数回実施予定									
アニメーション国際共同製作プロデューサー育成およびマッチングプロジェクト					★10/23セミナー			★ピッチトレーニング		★3/25実施
MPAセミナー&ピッチングコンテスト		準備			★10/25実施					
ロッテルダムラボプロデューサーマッチング							準備	★1月実施		

II. ビジネスマッチング運営会議の実施

i. 「コ・フェスタ 2018 実行委員会」(7月18日)

コンテンツ業界団体、関係省庁、政府機関、関係自治体の代表及びコンテンツ関連イベント主催者の代表で組織をし、各イベント内容の紹介、今年度の事業内容

について説明を行い、各イベント間の連携と情報共有を図りました。

場所：野村コンファレンスプラザ日本橋 5F 大ホール

出席者総数：54人

内訳：委員 25人（代理 11人含む）、委員随行者 20人、イベント関係者 9人(委員/随行者との重複除く)

\*コ・フェスタアンバサダー施策としては、9月20日にコ・フェスタアンバサダー15名が東京ゲームショー2018を訪問し、SNSでの海外発信に協力しました。

- ◆ コ・フェスタは、経済産業省から受託した平成30年度コンテンツ産業新展開強化事業（コンテンツ関連ビジネスマッチング事業）の一環で、ゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画等コンテンツ産業およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業に関わる各種イベントを効果的に海外に発信するための、海外発信力強化支援プロジェクトです。2018年度は国内外38イベントが参加しました。
- ◆ 世界各国・地域からの留学生を組織化したコ・フェスタアンバサダーによるイベント取材を東京ゲームショウやTIMM等で行いました。その取材内容を英語での日本コンテンツ情報サイト”JAPACON”や各アンバサダーのSNS等を通じて海外への情報発信した。JAPACON Facebookは2月時点で106万いいね！を記録しました。

ii. 「第1回ビジネスマッチング運営会議」（8月16日）

本事業の実施体制及び3つの目的（①新人・若手クリエイターが活躍できる機会を創出するビジネスマッチングモデルの確立、②先進技術を活用し新たな連携が行えるビジネスマッチングモデルの確立、③新興マーケットへ安心して進出できるビジネスマッチングモデルの確立）の確認。

イベント請負事業者（公益財団法人ユニジャパン、一般財団法人音楽産業・文化振興財団（JMCE）、一般財団法人デジタルコンテンツ協会（DCAJ）、一般社団法人日本動画協会（AJA）より、各イベントの仕様書、及び実施状況が共有されました。

iii. 「第2回ビジネスマッチング運営会議第1部」（9月28日）

「コンテンツビジネスマッチングのあるべき姿」について、VIPO、ユニジャパン、DCAJが発表しました。

iv. 「第2回ビジネスマッチング運営会議第2部」（10月4日）

「コンテンツビジネスマッチングのあるべき姿」について、JMCE、AJAが発表

しました。

「ジャンル別グローバルサーキットを再整理」「世界中のコンテンツが集まるマーケット（ウィンブルドン方式）となるか？日本のコンテンツの魅力を中心にアピールする場となるか？」「B to B に特化すべきか？B to C と融合すべきか？」について討議しました。

v. 「第3回ビジネスマッチング運営会議」（11月30日）

「各イベントの終了報告」について、TIMM,TIFFCOM,DCEXPO

VIPO マッチング事業を各担当者より報告。

前回に引き続き、B to B に特化すべきか？B to C と融合すべきか？について討議しました。

vi. 「第4回ビジネスマッチング運営会議」（2月4日）

「ビジネスマッチング（イベント）のあるべき姿」

JCS 池袋会場⇄TIMM 渋谷会場往来状況の報告。

本ビジネスマッチング事業の3つの目的についての総括

（①新人若手クリエイターが活躍できる機会創出、②先進技術を活用した新たな連携、③新興マーケットへ安心して進出できるモデルの確立）

経済産業省(高木課長)より、総括いただきました。

② 京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ2018）

京都市

コ・フェスタ2018のオフィシャル・イベントであるKYOTO CMEX 2018のアニメ・マンガ部門の統合イベントとして第7回京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）が9月15日、16日の両日開催され、41,700名（昨年34,058名、昨年比+22%）が来場しました。当機構では、4回目を迎える京都国際漫画賞を実施しました。今年は、対象国・地域を従来台湾、中国、韓国、日本の4カ国から全世界へ変更した結果、32カ国289件の応募があり、中国の薫さんが大賞を受賞しております。初年度の優勝者で日本のマンガ雑誌でデビューした台湾の漫画家は本年度も新作を日本の雑誌で発表しています。

③ クリエイターを中心としたグローバルコンテンツエコシステム創出事業  
費補助金 経済産業省

平成29年度補正予算による「クリエイターを中心としたグローバルコンテンツエコシステム創出事業費補助金」の募集を平成30年4月5日より開始しております。今年度は、①「クリエイター等の海外挑戦支援事業」、②



「多様な資金調達を目指した試作コンテンツ等開発支援事業」、③「正規版コンテンツ等の海外同時展開支援事業」の3種類の補助金となっております。①の補助金は、平成31年1月31日の申請期限までに771件の応募があり、484件が採択され、3月29日をもって全件確定検査が終了しました。②の補助金は、期間中96件の応募があり、36件が採択され、全件確定検査が終了しました。③の補助金は、期間中14件の応募があり、3件が採択され、全件確定検査が終了しました。

- ④ コンテンツグローバル需要創出等促進事業費補助金 経済産業省  
平成30年度補正予算による「コンテンツグローバル需要創出等促進事業費補助金（J-LOD）」の募集を平成31年2月18日より開始しております。今年度は、①「コンテンツ等の海外展開を行う際のローカライズ及びプロモーションを行う事業」、②「海外展開を目指すコンテンツの企画・開発として試作映像等を制作する事業」、③「デジタル技術を活用した先進性の高いコンテンツ等の開発等を行う事業」の3種類の補助金となっております。

事業の略称：「J-LOD」（読み：ジェイロッド、LOD意味：Localization & Distribution）

- ⑤ コンテンツ活用促進事業 東京都  
平成30年度予算における当該事業の事務局を受託しております。この事業は、コンテンツ企業・異業種企業（「製造」・「医療」・「教育」分野に加えて本年度は「商店街」及び「小売り」）のニーズを踏まえたセミナーを開催すると共に、相互の連携を促進するためのマッチング交流会を実施するものです。セミナーは、第1部『成功事例、資金調達方法、販路開拓等マッチング後に参考となる事項について専門家による講演から学ぶ』、第2部『成功事例に関するディスカッション』を実施。マッチング交流会は、11月7日に実施され、「製造」・「医療」・「教育」・「商店街」・「小売り」・「コンテンツ」分野から71社99名が参加し120のマッチングが行われました。この中から3件のビジネスが既に成立しております。

- ⑥ 平成30年度アジアにおける日本映画特集上映事業（新規） 文化庁  
アジアにおける日本映画祭を行う事業ですが、今年度はインドネシアのジャカルタで12月7日より10日間開催されました。上映本数は35本、動員が約1万5千人という成果を挙げました。オープニングは『カメラを止め

るな!』、クロージングは日本・インドネシアの合作『海を駆ける』で、いずれも満席でした。『万引き家族』も大好評で急遽追加上映を行いました。日本から監督・出演者も多数参加していただきましたが、皆さん、現地での感触に満足されていた様です。インドネシアの全国紙でも大きく取り上げられ、日本映画の認知向上に多大なる貢献をできたと考えております。

- ⑦ 平成 30 年度 メディア芸術海外展開事業(新規) 文化庁  
文化庁が主催している『メディア芸術祭』の受賞作品・作家等を海外で紹介・展示・プロモーションする事業です。今年は6月にアヌシー国際アニメーション映画祭(フランス)、9月にアルス・エレクトロニカ(オーストリア)、11月にサロン・デル・マンガ(スペイン)で上映・展示・紹介を実施し、その他10ヵ所程度のDVD上映を行いました。特にアヌシーに関しては、2019年度に日本をカントリー・オブ・オナーとすることに成功し、現在、鋭意準備中です。
- ⑧ 文化遺産オンラインへの情報登録・多言語化推進ウェブページ作成業務(新規) 文化庁  
文化財の多言語化推進事業の広報ウェブを受託しました。今後、来年度の事務局の受託につなげるべく活動中です。
- ⑨ ノンフィルム資料アーカイブ事業(新規) 文化庁  
映画のノンフィルム資料のアーカイブ拠点ネットワークの形成&利活用事業であり、今年度は京都における映画資料の実態調査と修復・展示の実証実験並びにアーカイブ&修復に関するセミナーを京都で開催しました。セミナーには関西・東京のみならず、新潟や九州からも約50名の参加者があり、来年度以降のネットワーク形成に向けて良いスタートが切れました。
- ⑩ メディア芸術連携促進事業(新規) 文化庁  
ゲーム・アニメ分野等のストーリーバンク構築&実証実験事業であり、クリエイターによるオリジナル・ストーリーの開発とそれを格納して海外への展開につなげるビジネスモデルを目指しています。2月にGAME STORY BANKとして開設されており、ストーリーの格納数は当初20でスタートしました。既に、中国の大手ゲーム会社より引き合いが来ております。
- ⑪ ジャパン・フィルム・コミッション(JFC) 関連事業(新規) JFC  
2019年1月に「海外作品プロデューサー等による地域FCへの講習会」を

実施しました。全国の FC から約 110 名の参加がありました。同時に全国ロケ地フェアを VIPO オフィスにて実施し、全国から集まった 55FC に対して映像製作者側が 173 名参加し、活発な誘致活動が行われました。

また、2018 年 9 月にはツーリズム・エキスポ・ジャパンにて全国ロケ地マップフェアの初めての開催を企画から支援し、今後につなげる活動を行いました。

## ⑫ デジタルアーカイブに関する諸外国における政策調査(新規)

内閣府

政府が進めるデジタルアーカイブジャパンの主要施策であるジャパンサーチ（国内図書館・博物館・美術館・文化財・コンテンツの横断検索システム）に関連して、EU、米国、中国、韓国のデジタルアーカイブの現状を調査報告する事業を実施しました。VIPO が運営する JACC がジャパンサーチのコンテンツ業界におけるデータベースを取り纏める「つなぎ役」となることになり、その関連で受託しております。

## (3) 自主事業

### ① VIPO アカデミー

2015 年 5 月に 1 コースを開設し、今年度は 4 年目を迎え、これまで 102 社 467 名に受講いただきました。コンテンツ業界各社に確実に浸透して来ており、アカデミーに参加することを目的に入会する企業も数社現れて来ています。様々な企業との直接的なコンタクトにより、各社のニーズを把握する機会が生まれ、VIPO の活動拡大の可能性に繋がって来ております。又、各コースに VIPO スタッフ（出向者含め）が参加することにより、スタッフのスキル、知識及びモチベーションの向上にも繋がってしております。

#### I. 春期（4 月～8 月）の実績（以下、参加者人数は、VIPO スタッフ除く）

「コーポレートリーダーコース」参加者 11 名

「プロジェクトリーダーコース」参加者 11 名

「業界研究ベーシックコース」参加者 342 名（延べ）

「グローバルビジネスコース」参加者 8 名

「ファイナンス・エッセンシャルコース」参加者 12 名

#### II. 夏期

今年度は 8 月 6 日に「働き方改革の無料セミナー」を実施。業界の人事担当者を中心に 23 名の参加がありました。また、同日夜に VIPO ア

カデミーの卒業生の合同同窓会を実施しました。

III. 秋期（9月～11月）の実績（10/29現在）

「コーポレートリーダーコース」参加者 9名

「プロジェクトリーダーコース」参加者 10名

「グローバルビジネスコース」参加者 10名

「リーガル・エッセンシャルコース」参加者 14名

「ファイナンス・エッセンシャルコース」参加者 7名

IV. 冬期（1月～3月）

かねてより要望をいただいていた企業への派遣型研修を実施。

レコチョク社へロジカルシンキング研修（4日間）

コーポレートリーダーコースのリーダーシッププログラムの短期講座  
「権限委譲」を実施。参加者 7名

V. 来年度への展望

更なるコース内容の充実と受講者のニーズに対応するために、各コースの講義内容や講師の精査、企業へのヒアリングを実施しており、それを元に必要な変更を実施します。冬期より開始した派遣型の講座および短期講座の開講を推進することで、参加企業、参加者の増加及び事業採算の向上を目指します。

② セミナー・ワークショップ事業（参加総数：1,263名）

- ・「コンテンツ東京 2018 中国アニメ配信事業の最前線と未来」（4月6日、東京）

分部悠介氏（IP FORWARD グループ CEO・代表弁護士/世界二次元産業連盟 日中コンテンツビジネス促進顧問）、何子芸氏（テンセント アニメ・版權運営センター ゼネラルマネージャー）を迎え、中国におけるアニメ配信の最新事情をわかりやすく講義。参加数は約 500 名。

- ・「コンテンツ業界が知っておきたい中国ビジネス攻略セミナー」（4月12、13日、東京）

ビジネス編、法律編を2日間に渡り実施。講師は、分部悠介氏。参加者は、4/12が55名、4/13が48名、合計103名

- ・「K-Story & Webtoon in Japan」（5月31日、東京）KOCCAからの受託

## 事業

韓国のストーリー及び webtoon を紹介するイベント。ピッチングには 200 名参加。

マッチングは 110 件。

さらに、映画やアニメ制作会社 3 社の企業訪問を実施しました。

- エンタメマーケター養成講座 2018 全 4 回  
5/15(火)、21(月)、28(月)、6/4(月) 参加者 43 人 2017 年から好評シリーズ化第 2 弾
- テレビ朝日プロデューサーと「相棒」脚本家による TV ヒットドラマの作り方  
5/18(金)参加者 57 人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムと共催
- 第 12 回プロデューサーズ・カフェ TBS「カルテット」佐野プロデューサー講演  
6/25(月)参加者 41 人 毎年協力しての開催 主催：(一社)日本映画テレビプロデューサー協会 協力：VIPO
- アクターズワークショップ第 5 弾 「真田丸」NHK 吉川邦夫プロデューサー  
7/26(木)・27(金) 2 日間 参加者 俳優 35 人
- コンテンツ業界人が必ず知っておきたい海外見本市・イベント直前攻略セミナー [基礎マスター編]  
9/3(月) 3 部構成 参加者 23 名
- コンテンツ業界が知っておきたい中国 ビジネス攻略セミナー  
ビジネス編、法律編を 2 日間に渡り実施。講師は、分部悠介(IP FORWARD グループ CEO・代表弁護士/世界二次元産業連盟 日中コンテンツビジネス促進顧問) 氏。  
2/7 (木) ビジネス編 参加者 50 名  
2/8 (金) 法律編 参加者 50 名
- コンテンツ業界が知っておきたいインドネシア ビジネス攻略セミ

ナー

講師は、アルベルトゥス・プラセチティオ氏（インドネシア総合研究所 代表取締役社長）が務め、インドネシアのコンテンツ産業や日本コンテンツの進出状況などをわかりやすく解説。

2/28（木）参加者 51 名

- ・ コンテンツ業界が知っておきたい中国 ビジネス攻略セミナー  
好評のため、ビジネス編、法律編の第 2 弾を 2 日間に渡り実施。講師は、分部悠介（IP FORWARD グループ CEO・代表弁護士/世界二次元産業連盟 日中コンテンツビジネス促進顧問）氏。

3/4（月）ビジネス編 参加者 53 名

3/6（水）法律編 参加者 57 名

### ③ ジャパンアンバサダー事業

日本文化の海外展開およびインバウンドにおけるさまざまな課題を親日の外国人のサポートによって支援する事業です。発信、体験、調査、言語の 4 つの視点から解決するマーケティングサービスを提供しています。2 年目となります本年度は、問合せ数、受注数共に大幅に増加しました。

#### I. 実施状況（受注内容）

- ・ 調査（アンケート、グループインタビュー、その他）：13 件
- ・ 体験・発信：5 件
- ・ 多言語対応支援：2 件

#### II. 内訳

##### i. アンケート調査：7 件

- ・ 民放連「テレビ番組視聴と日本への関心についての調査」  
（対象：アジア 4 カ国）
- ・ クールジャパン機構「日本の果物に関する調査」（対象：タイ）
- ・ 民放連「テレビ番組視聴と日本への関心についての調査」  
（対象：中国）
- ・ 電通「日本の印象、訪日経験、訪日意向等に関する調査」  
（対象：在英・在日のイギリス人）
- ・ キューベックス「日本と日本の訪日経験のある中国人（中国在住）への調査」
- ・ クオラス「TVCM ネガティブチェック調査」（対象：世界 22 カ国）
- ・ 民放連「日本のテレビ番組に関する調査」（対象：アジア 4 カ国）

- ii. グループインタビュー：3件
  - ・アジアにおける日本映画特集上映事業（文化庁）「日本映画や映画視聴に関する調査」（対象：インドネシア）
  - ・WAKUWAKU JAPAN「テレビ番組視聴に関する調査」（対象：アジア4カ国）
  - ・ソリッドインテリジェンス「青森県旅行体験者の台湾人に対する調査」リクルーティング
- iii. その他調査：3件
  - ・内閣府「デジタルアーカイブの状況に関する調査」（対象：中国・韓国・アメリカ・EU）
  - ・国際交流基金「日本番組の海外放送に関する調査」（対象：アフリカ）
  - ・ブルームーン・マーケティング「海外5カ国での家電パッケージ調査」（対象：アメリカ、イギリス、中国、インドネシア、インド）
- iv. 体験・発信（インフルエンサープロモーション）：5件
  - ・SCRAP／謎解きテーマパークの体験・発信  
（9カ国出身の計20名のインフルエンサーが参加）
  - ・JTB岡山／岡山県観光に関する取材・発信  
（欧米豪5カ国出身の計5名のインフルエンサーが参加）
  - ・DHE／青森県観光に関する取材・発信  
（アメリカ出身インフルエンサー1名が参加）
  - ・日本旅行／愛知県観光に関する取材・発信  
（欧米豪6カ国出身の計10名のインフルエンサーが参加）
  - ・共同通信デジタル／調布市観光に関する取材・発信  
（香港、台湾出身の計4名のインフルエンサーが参加）
- v. 多言語対応：2件
  - ・ツーリズム EXPO／英語・中国語に対応可能なスタッフ、ガイドとして支援（ヨーロッパ・アジア9カ国出身、計10名）
  - ・PROMIC（現 JMCE）／TIMM 2018 会場での多言語対応スタッフとして支援（中国、韓国、ドイツ出身、計3名）

#### ④ AFI Conservatory 日本人留学生推薦事業

将来の映像産業を担うプロフェッショナルの発掘と育成を目指すと共に、日本の映画企画や若手クリエイターが世界に出ていく仕組みを構築する事を目的とし、AFI (American Film Institute) Conservatory へ留学を希望する日本人の推薦活動を運営しております。AFI Conservatory への入学が正式に決定した場合、“T.Y. 奨学金制度” が AFI Conservatory の判

断により給付される可能性があります。

また、将来的には留学生、卒業生等の講演やワークショップを日本で実施するなど、AFI へ留学を希望する日本人の数および質の向上を目指しております。

- ・VIPO 内サイトにおいて募集告知及び会員を含め約 10,000 名に告知メール配信 (8 月)。

- ・映像・演劇関連 2 サイトに告知投稿 (8 月)。

本年度は応募 3 名。うち 2 名は応募後、審査前に AFI Conservatory への受験を断念。本年度の候補生として有近い氏を推薦。

## ⑤ 交流促進事業

### I. 海外の同様の機関等と交流の推進

- i. 中国ラジオテレビ総局主催 中国主要テレビ局番組制作・展開研修団受け入れと「日本におけるコンテンツ産業の海外展開」についてのプレゼンテーション。(6 月)

- ii. 中国人民政治協商会議全国委員会文化文史と学習委員会代表団受け入れと「日本におけるコンテンツ産業の海外展開」についてのプレゼンテーション。(7 月)

- iii. 日中韓文化コンテンツ産業フォーラム(主催:中国対外文化集团公司)(中国・天津市)に専務理事 事務局長が出席。

VIPO、中国対外文化集团公司、韓国コンテンツ振興院の 3 者間で「中日韓文化コンテンツ産業の協力的発展のための協力体」の覚書を結ぶ。(10 月)

## ⑥ 情報サービス事業

JACC (Japan Content Catalog) は現在、日本語で約 10 万項目が登録され、内約 9 万 6 千項目が英語・ローマ字でも登録されており検索が可能となっております。現状、音楽アーティストの海外からのブッキングが活発になっているようです。今後、J-LOD の下で多言語(中国語)対応とクリエイターバンクの創設を実施する予定です。

## (4) 組織運営

### ① 会員の状況

#### I. 新規入会

個人会員 0 名 法人会員 2 社 賛助会員 1 社

#### II. 退会



個人会員 0名 法人会員 0社 賛助会員 0社  
(前年度限り 個人会員 1名 法人会員 5社 賛助会員 1社)

### III. 現在の状況

- ・会員数：個人会員 3名 法人会員 99社 賛助会員 9社
- ・会費及び入会金入金額(予定含む) 50,370千円(昨年比1,160千円減額)

## ② 通常総会、理事会、幹事理事会

### I. 通常総会

平成30年6月19日に通常総会を開催し、平成29年度の事業報告・会計報告、平成30年度の事業計画・予算・役員を選任等について決議をいただきました。

### II. 理事会

- ・平成30年6月5日に開催し、通常総会の審議事項について決議をいただきました。
- ・平成30年6月19日の通常総会後に開催し、役員を選任について決議をいただきました。
- ・平成30年7月2日に開催し、理事長(代表者)の選任について決議をいただきました。
- ・平成30年11月28日に開催し、中間事業報告を行いました。

### III. 幹事理事会

- ・平成30年4月11日に開催し、平成29年度の事業報告(案)および平成30年度の事業計画(案)等について報告を行いました。
- ・平成30年6月5日に開催し、平成29年度の事業・会計の報告を行いました。また、平成30年度の事業計画(案)・予算(案)・役員を選任(案)、定款変更(案)について報告を行いました。
- ・平成30年11月28日に開催し、中間事業報告を行いました。
- ・平成31年3月26日に開催し、平成30年度事業報告書(案)及び平成31年度事業計画の方向性について報告を行いました。

### IV. 会員交流会

平成30年6月19日に当機構会員・役員、関係省庁(内閣府知的財産戦略推進事務局、総務省、外務省、文化庁、経済産業省)関係団体・企業の皆様をお招きして交流会を開催し多数のご参加を頂きました。本

会では同日に行われた通常総会のご報告をするとともにご出席の皆様との交流を深めていただきました。

## (5) 広報活動

### ① 「VIPO 年間活動報告 2017」の発行

「VIPO 年間活動報告 2017」を6月19日付にて発行し、総会、会員交流会等で配布しました。その後、事業・広報活動等で活用しております。

### ② ホームページの運営

ホームページにおいて、随時活動報告及びコンテンツ業界の情報を掲載いたしました。

2016年9月より開始したコンテンツ業界に関わる人やイベントをテーマにしたインタビュー企画では、以下を取り上げました。

●2018年5月 Rotterdam Labに参加した山戸 結希氏（映画監督／プロデューサー）

●2018年5月 クランチロール、Right Stuf、Anime Centralが「日本アニメ」への期待と課題を語る

●2018年6月 急速に成長をする中国アニメ配信市場で、日本アニメ業界がなすべきこととは（コンテンツ東京セミナー再構成）

●2018年7月 『アニメ NEXT\_100』— 101年目を迎える日本のアニメがこの先100年も世界のトップでいるためには

●2018年7月 JeSU 岡村会長が語る、eスポーツの未来と可能性

●2018年7月 “既存”を超えていく。松竹から読み解く経営術 細田光人氏（VIPO アカデミーセミナー再構成）

●2018年8月 日本アニメの海外展開のミライ—— プロが明かす海外展開の裏側と、国際共同制作の新しいカタチ（VIPO セミナー再構成）

●2018年9月 明日から取り入れる「働き方改革〈1〉」—— DeNAが取り組む「健康経営」編（VIPO アカデミーセミナー再構成）

●2018年9月 明日から取り入れる「働き方改革〈2〉」—— ファザリング・ジャパンが推進する「イクボス」編（VIPO アカデミーセミナー再構成）

●2018年10月 北米最大のキッズエンターテイメント産業見本市「Kidscreen Summit」～参加者が結果につなげるための秘訣を知る～（VIPO マッチングセミナーより再構成）

- 2018年10月 日本人が知らない中国コンテンツ産業の新常識 (中国ビジネス攻略セミナー「ビジネス編」から一部を再構成)
- 2018年11月 第3次韓流ブームの裏にある韓国の戦略——KOCCA (韓国コンテンツ振興院)、韓国コンテンツの勝ちパターンを明かす
- 2018年11月「事務方トップが語る、新しい“クールジャパン”を導く知的財産戦略ビジョン」住田孝之氏 (内閣府 知的財産戦略推進事務局長)
- 2018年12月 セガCOOの経験則から学ぶ、マネジメントの極意 (VIPOアカデミー「コーポレートリーダーコース」講演より再構成) 岡村秀樹氏 (株式会社セガホールディングス 代表取締役社長 COO)
- 2019年2月 カンヌに10年通って体感した日本コンテンツ海外展開の課題と展望 長谷川朋子氏 (『放送ジャーナル』テレビ・ラジオ担当記者)

### ③ VIPO会員とコンテンツ事業者へのメール配信

VIPOの活動報告を毎月定例で発信する「VIPOプレス」の発行と、会員各社の情報や事業活動などを不定期に発信する「VIPOニュース」を継続的に発信しました。メールニュースの配信先数(コンテンツ事業者)は、約10,000件(2019年3月7日現在)です。

### ④ 事業活動情報の記事露出

各イベントへの取材誘致活動やプレスリリース配信などを通し、プレスに対し事業活動の最新情報を定期的に発信することで、業界紙・誌を中心にパブリシティを獲得いたしました。→昨年度は約313件(2017年4月1日～2018年3月27日)、今年度は約334件(2018年4月1日～2019年3月7日)の記事掲載がありました。

以上